

日光国立公園

報告者：環境省日光国立公園管理事務所 所長 北橋義明

日光国立公園は満喫プロジェクトの中では『Nikko is Nihon』というテーマで、自然・歴史・文化がそろった美しい日本を感じられる東京圏のプレミアムリゾートというキャッチフレーズをつけている。日光エリアは東照宮をはじめとする二社一寺が世界文化遺産となっているほか、中禅寺湖は夏に各国の別荘があり避暑地として長く親しまれてきた歴史もある。那須エリアのほうでは、陛下のご意向を踏まえて、豊かな自然を持つ那須平成の森を宮内庁から環境省に移管された、そういうプレミアムな魅力のある公園として様々な取り組みを行っている。こうした取組は、栃木県をはじめとした各関係の行政機関、東武鉄道さんのような民間企業とも連携をして進めている。

今日は2つの点に絞って説明をしたいと思う。1つはビジターセンター等へのカフェ導入、2つ目はガイド養成事業についてである。

カフェの導入について、日光国立公園で取り組んでいるのは那須平成の森のフィールドセンターである。宮内庁から移管された那須平成の森において、自然体験エリアの中心拠点施設として環境省でこのフィールドセンターを整備している。建築時はカフェの設置は想定されていなかったため、施設の内部にはカフェの利用可能スペースはない。また、場所の地理的条件として上下水道が通っていないということが、考えていく上で1つネックになっていた。施設の管理については、環境省からキープ協会という団体をお願いをしているが、そことは別にカフェ事業者を導入するため、今回いわゆる公募型ということで地元で公募をして募集し、選定をする方式を採った。

カフェを行う上では3つ関係法令があった。1つは自然公園法。公園事業というシステムの中でやっているが、先程話したようにこの施設は環境省の直轄事業ということになっているので、それと別に民間事業者が実行するというのではなく、あくまでも環境省が全体の事業執行者であるという上で、カフェの運営の部分を環境省とカフェ事業者が協定を結び実施をした。国有財産法だが、環境省の施設なので民間事業者が実施するときには国有財産の使用許可を取らないといけない。施設のデッキ部分にパラソル、テーブルを置いて利用すると同時に事業者がコーヒーを販売するためのカウンターを作ったが、そのカウンター関係部分のみを使用許可するという形で、デッキ部分については事業者が占有するわけではないので使用許可は不要としている。3つ目は我々としても試行錯誤する部分になる食品衛生法、厚生労働省の管轄になる。「飲食店営業許可」等の手続きもあるが、試行ということで「臨時出店届」というイベント等の露店と同じような手続きを、環境省が行うことにした。年間5日以内という縛りがかかっているため、あくまでも試行という中での実施となっている。

その他導入にあたって工夫した部分だが、地元との連携を大事にしたいと思ったので、地元在住のクリエイターの方に協力してもらい全体のコンセプトデザインを作り、それにのっかって様々な仕組みを作っていた。その中の1つとして、組み立て式のカウンターを作った。臨時出店ということであり、その日のためだけの施設が1年中あるのはよろ

しくないということで、実際にカフェを営業するときだけ持ち出して設置できるようなカウンターを工夫してもらった。こうしたものを作るにあたり、住民参加を取り入れていきたいということで、カフェに使うテーブルに関しては地元のみなさんに参加してもらったワークショップ形式で作成した。また、公共の施設を使ったカフェということで、収益を何らかの形で地元還元したいと考え、那須平成の森には那須平成の森基金というものがあったので、カフェの収益を募金という形でその基金に入れてもらうことを協定書の中に盛り込んでいる。

試行結果についてだが、今年が実施の1年目であるが、第一回は6月に1日だけ行った。地元の社会福祉団体の人にやってもらい、実際に来館者の3割が購入してくれた。社会福祉団体の実施ということで安価な提供してもらったが、それでも黒字が出た。第二回については紅葉の時期に公募によって地元のカフェ事業者さんに入ってもらった。こちらについては天気の良いときもあったが、それでも来館者の2割に購入してもらった。詳細な収支についてはまだ精算中だが、こちらについても黒字は確定だと聞いている。

今後の課題だが、4年かけてまずは2年で安全性の確認をした上で、その後に2年かけて運営の簡素化を考えていきたいと思っている。1つの課題は公平な募集をどうやって行っていくか。2つ目は収益判断。先程試行で年間5日間だと説明したが、本格導入するとなればお客さんの入る時期も踏まえながら、いくらであれば損益分岐点になるかということを考えていきたい。効率的な運用方法、周辺事業者からの理解も得ていく必要があると考えている。日光エリアでも同様にカフェの導入に取り組んでいるが、もう少し簡易な形で、現在施設の管理を行っている事業者の取り組みの中でコーヒーの提供などをしていきたいと考えている。

2点目の自然ガイドの育成研修だが、既存ガイドの能力向上と新規ガイドの育成を行いたいということで取り組んでいる。実施会場としては那須平成の森フィールドセンターで実施している。昨年度から取り組んでいるが、昨年度と今年の第一回が基礎編。基本的にはインタープリテーションの考え方を学んでもらっている。第二回はこの冬に予定しているが、そこではステップアップということで実際にプログラムを作ったり、自分達で自立していくためのシステムを構築してもらおう。さらに全体で4年かけて各ガイドさんが自分達で作ったプログラムでご飯を食べていけるようになることを目標にしている。なお、多言語対応については国立公園の中のみならず外も含めた課題ということで、栃木県が英語研修の実施を予定しているので、そちらと連携しながらやっていきたいと考えている。また、ガイドの組織化も課題になっているが、これについては今後満喫プロジェクトの取り組みの中でガイド活用等を考えていく体制を構築することになっているので、この中で検討していきたい。